

第三次いわき市こどもみらいプランの需給計画について

市子ども・子育て支援事業計画においては、令和7年度から令和11年度まで5か年の「量の見込み(子どもの数=需要)」と「確保方策(幼保施設等の利用定員=供給)」を定めることとしている。

今回の分科会では、次の事業等の量の見込みの考え方について、委員の意見を伺うもの。

①教育・保育施設及び地域型保育事業

②地域子ども・子育て支援事業(放課後児童クラブ、地域子ども子育て支援拠点事業、こども誰でも通園制度など)

※全ての事業についてR2～R6の実績を基に推計している

・ニーズ調査に基づく推計値・・・ニーズ推計値

・実績に基づく推計値・・・・実績推計値

人口推計

(単位：人)

対象年齢	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
0歳	2,038	1,948	1,861	1,738	1,622	1,583	1,543	1,504	1,465	1,428
1～2歳	4,475	4,387	4,143	3,848	3,639	3,386	3,232	3,151	3,071	2,993
3～5歳	7,540	7,504	7,088	6,740	6,327	6,017	5,609	5,266	4,975	4,778
合計(就学前児童)	14,053	13,839	13,092	12,326	11,588	10,986	10,384	9,921	9,511	9,199
6～8歳	7,753	7,913	7,940	7,709	7,452	7,051	6,711	6,297	5,991	5,583
9～11歳	8,039	7,903	7,771	7,833	7,899	7,913	7,711	7,432	7,033	6,693
合計(就学児童)	15,792	15,816	15,711	15,542	15,351	14,964	14,422	13,729	13,024	12,276
12～14歳	8,864	8,686	8,427	8,085	7,881	7,751	7,812	7,871	7,884	7,684
15～17歳	9,540	9,332	9,109	8,880	8,711	8,417	8,091	7,879	7,749	7,809
合計(0～17歳)	48,249	47,673	46,339	44,833	43,531	42,118	40,709	39,400	38,168	36,968

1 教育・保育施設及び地域型保育事業

(1) 3号認定の児童（0歳児）

(単位：人)

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	量の見込みの考え方 実績推計値を採用とした理由など
実績値/推計値（0歳）	416	402	406	373	361	361	360	358	356	354	○4.1時点の実人数 ・ニーズ推計値>実績推計値 ニーズ調査の結果から0歳児の保育ニーズが高いことが確認できるが、ニーズ推計値を採用すると実績と比べて多く量を見込むこととなる。 R6の時点で入所可能人数が約600人に対し、361人の利用数であることを考えると、今後もニーズ推計値ほど利用することは考えづらい。 一方で、入所割合は微増傾向にある。 以上を踏まえ、今後も入所割合は微増すると判断し、実績を基に量を見込んだ。 ①R2～6の利用児童数÷児童数で利用割合を算出 ②前年からの利用割合の伸び率を算出 ③R3～6の平均伸び率を算出 ④R7以降は毎年0.5%ずつ利用割合が増加をすると判断 ⑤R7以降の推計値は推計児童数*利用割合で算出
ニーズ調査に基づく推計値	1,433	1,392	1,354	1,317	1,285	1,086	1,058	1,032	1,005	980	
入所割合	20.4%	20.6%	21.8%	21.5%	22.3%	22.8%	23.3%	23.8%	24.3%	24.8%	
伸び率	2.2%	0.2%	1.2%	-0.3%	0.8%	0.5%	0.5%	0.5%	0.5%	0.5%	

(2) 3号認定の児童（1～2歳児）

(単位：人)

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	量の見込みの考え方 実績推計値を採用とした理由など
実績値/推計値（1歳）	1,065	1,035	1,008	1,020	981	942	945	946	946	946	○4.1時点の実人数 ・ニーズ推計値≒実績推計値 ・1歳と2歳を分けて算出。 ニーズ調査の結果から1～2歳児の保育ニーズは実績と概ね同数であることが確認できる。 R6の時点で入所可能人数が約2,300人に対し、2,161人の利用数であることを考えると、今後もニーズ推計値ほど利用することは考えづらい。 一方で、入所割合は増加傾向にある。 以上を踏まえ、今後も入所割合は増加すると判断し、実績を基に量を見込んだ。 ①R2～6の利用児童数÷児童数で利用割合を算出 ②前年からの利用割合の伸び率を算出 ③R3～6の平均伸び率を算出 ④R7以降は毎年1歳は1.6%、2歳は2.2%ずつ利用割合が増加をすると判断 ⑤R7以降の推計値は推計児童数*利用割合で算出
ニーズ調査に基づく推計値	-	-	-	-	-	1,088	1,062	1,035	1,009	983	
入所割合	49.4%	47.6%	50.7%	54.1%	55.8%	57.4%	59.0%	60.6%	62.2%	63.8%	
伸び率	-	-1.8%	3.1%	3.4%	1.7%	1.6%	1.6%	1.6%	1.6%	1.6%	
実績値/推計値（2歳）	1,255	1,217	1,192	1,130	1,180	1,133	1,094	1,102	1,108	1,113	
ニーズ調査に基づく推計値	-	-	-	-	-	1,183	1,105	1,078	1,051	1,024	
入所割合	54.1%	55.0%	55.3%	57.5%	62.7%	64.9%	67.1%	69.3%	71.5%	73.7%	
伸び率	-	0.9%	0.3%	2.2%	5.2%	2.2%	2.2%	2.2%	2.2%	2.2%	
実績値/推計値（1～2歳）	2,320	2,252	2,200	2,150	2,161	2,075	2,039	2,048	2,054	2,059	
ニーズ調査に基づく推計値	2,572	2,461	2,432	2,364	2,300	2,271	2,167	2,113	2,060	2,007	
入所割合	51.8%	51.3%	53.1%	55.9%	59.4%	61.3%	63.1%	65.0%	66.9%	68.8%	
伸び率	-	-0.5%	1.8%	2.8%	3.5%	1.9%	1.9%	1.9%	1.9%	1.9%	

(3)-1 2号認定の児童（3～5歳児） 教育希望：幼保連携型認定こども園+幼稚園型認定こども園 (単位：人)

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	量の見込みの考え方 実績推計値を採用とした理由など
実績値/推計値 (3～5歳)	845	885	952	955	955	974	972	974	981	1002	
ニーズ調査に基づく推計値	1381	1345	1284	1238	1203	691	644	605	571	549	
入所割合	21.5%	22.5%	24.3%	25.2%	26.1%	27.3%	28.5%	29.7%	30.9%	32.1%	
伸び率	-	1.0%	1.8%	0.9%	0.9%	1.2%	1.2%	1.2%	1.2%	1.2%	

(3)-2 2号認定の児童（3～5歳児） 保育：保育所型認定こども園+保育所 (単位：人)

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	量の見込みの考え方 実績推計値を採用とした理由など
実績値/推計値（3～5歳）	3081	3053	2967	2840	2703	2594	2438	2307	2193	2118	○4.1時点の実人数 ・ニーズ推計値>実績推計値 ・2号を教育希望と保育に分けて算出。 ニーズ調査の結果から3～5歳児の保育ニーズが高いことを確認できるが、ニーズ推計値を採用すると実績と比べて多く量を見込むこととなる。 R6の時点で入所可能人数が約4,100人に対し、3,658人の利用数であることを考えると、今後もニーズ推計値ほど利用することは考えづらい。 一方で、入所割合は増加傾向にある。 以上を踏まえ、今後も入所割合は増加すると判断し、実績を基に量を見込んだ。 ①R2～6の利用児童数÷児童数で利用割合を算出 ②前年からの利用割合の伸び率を算出 ③R3～6の平均伸び率を算出 ④R7以降は毎年教育希望は1.2%ずつ利用割合が増加、保育は1.2%減少すると判断 ⑤R7以降の推計値は推計児童数*利用割合で算出
ニーズ調査に基づく推計値	3747	3650	3483	3358	3264	3886	3623	3401	3213	3086	
入所割合	78.5%	77.5%	75.7%	74.8%	73.9%	72.7%	71.5%	70.3%	69.1%	67.9%	
伸び率	-	-1.0%	-1.8%	-0.9%	-0.9%	-1.2%	-1.2%	-1.2%	-1.2%	-1.2%	

(3)-3 2号認定の児童（3～5歳児） 合計 (単位：人)

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	量の見込みの考え方 実績推計値を採用とした理由など
実績値/推計値（3～5歳）	3,926	3,938	3,946	3,797	3,658	3,568	3,410	3,281	3,174	3,120	
ニーズ調査に基づく推計値	5,128	4,995	4,767	4,596	4,467	4,578	4,267	4,006	3,785	3,635	
入所割合	52.0%	52.4%	55.6%	56.3%	57.8%	59.3%	60.8%	62.3%	63.8%	65.3%	
伸び率	7.6%	0.4%	3.2%	0.7%	1.5%	1.5%	1.5%	1.5%	1.5%	1.5%	

(4) 1号認定の児童（3～5歳児）

(単位：人)

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	量の見込みの考え方 実績推計値を採用とした理由など
実績値/推計値（3～5歳）	3,816	3,549	3,115	2,859	2,559	2,274	1,974	1,717	1,493	1,309	○4.1時点の実人数 ・ニーズ推計値<実績推計値 ニーズ調査の結果から3～5歳児の幼稚園のニーズは減少傾向にあることが確認できるが、ニーズ推計値を採用すると実績と比べて少なく量を見込むこととなる。 R6の時点で入所可能人数が約3,300人に対し、2,559人の利用数であることを考えると、R7の時点でニーズ推計値ほど利用人数が減少することは考えづらい。 以上を踏まえ、今後も入所割合は減少すると判断し、実績を基に量を見込んだ。 ①R2～6の利用児童数÷児童数で利用割合を算出 ②前年からの利用割合の伸び率を算出 ③R3～6の平均伸び率を算出 ④R7以降は毎年2.6%減少すると判断 ⑤R7以降の推計値は推計児童数*利用割合で算出
ニーズ調査に基づく推計値	3,583	3,499	3,332	3,198	3,077	1,901	1,772	1,664	1,571	1,510	
入所割合	50.6%	47.3%	43.9%	42.4%	40.4%	37.8%	35.2%	32.6%	30.0%	27.4%	
伸び率	-2.8%	-3.3%	-3.4%	-1.5%	-2.0%	-2.6%	-2.6%	-2.6%	-2.6%	-2.6%	

(5) 1号・2号・3号認定計（0～5歳児）

(単位：人)

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
実績値/推計値（0～5歳）	10,478	10,141	9,667	9,179	8,739	8,278	7,783	7,404	7,077	6,842
ニーズ調査に基づく推計値	12,716	12,348	11,885	11,474	11,130	9,836	9,264	8,815	8,421	8,132

2 延長保育事業

(単位：延べ人数/年)

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	量の見込みの考え方 実績推計値を採用とした理由など
実績値/推計値	4,716	4,764	5,316	4,056	4,932	5,027	5,027	5,027	5,027	5,027	○年間の延べ人数（平均）を算出 ・ニーズ推計値<実績推計値 ニーズ調査の結果から高いニーズが確認できるが、ニーズ推計値を採用すると多く量を見込むこととなる。 保育ニーズの高まりとともに一定数の利用が考えられるが、今後延べ人数が大きく増減する可能性は低いと判断し、実績を基に量を見込んだ。 ①R6はR2～5の平均値で推計 ②前年からの増減数を算出 ③R7の推計値はR6の推計値にR2～5の平均増減数を加えた ④今後も需要の大幅な増減はないと判断したためR8以降はR7と同数とした
ニーズ調査に基づく推計値	6,965	6,753	6,527	6,303	6,099	10,068	9,516	9,096	8,724	8,436	
延べ人数の増減	1038	48	552	-1260	876	95	-	-	-	-	

3 放課後児童クラブ

(1) 低学年

(単位：人)

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	量の見込みの考え方 実績推計値を採用とした理由など
実績値/推計値（低学年）	2,304	2,462	2,569	2,675	2,698	2,665	2,644	2,582	2,552	2,468	○4.1時点の実人数 ・ニーズ推計値>実績推計値 ニーズ調査の結果から就学前と小学生でニーズに差があり、就学前は高いニーズがあるが小学生のニーズは実績とほぼ同数であることが確認できる。 年々利用割合は増加しており、ニーズ調査からもその傾向が伺える。 以上を踏まえ、今後も利用割合は伸びていくと判断し、実績を基に量を見込んだ。 ①R2～6の利用児童数÷児童数で利用割合を算出 ②前年からの利用割合の伸び率を算出 ③R2～6の平均伸び率を算出 ④R7以降は毎年1.6%ずつ利用割合が増加をすると判断 ⑤R7以降の推計値は推計児童数*利用割合で算出
ニーズ調査に基づく推計値（就学前）	3,650	3,678	3,712	3,641	3,555	4,219	4,015	3,768	3,585	3,340	
ニーズ調査に基づく推計値（小学生）	-	-	-	-	-	2,782	2,648	2,485	2,364	2,203	
利用割合	29.7%	31.1%	32.4%	34.7%	36.2%	37.8%	39.4%	41.0%	42.6%	44.2%	
伸び率	1.5%	1.4%	1.3%	2.3%	1.5%	1.6%	1.6%	1.6%	1.6%	1.6%	

(2) 高学年

(単位：人)

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	量の見込みの考え方 実績推計値を採用とした理由など
実績値/推計値（高学年）	824	778	743	837	858	950	1,010	1,055	1,076	1,098	○4.1時点の実人数 ・ニーズ推計値>実績推計値 ニーズ調査の結果から就学前と小学生のどちらも高いニーズがあることが確認できる。 年々利用割合は増加傾向にあり、ニーズ調査からもその傾向が伺える。 また、待機児童に占める高学年の割合は多い。 以上を踏まえ、今後も利用割合は伸びていくと判断し、実績を基に量を見込んだ。 ①R2～6の利用児童数÷児童数で利用割合を算出 ②前年からの利用割合の伸び率を算出 ③R7以降は毎年1.1%ずつ利用割合が増加をすると判断 ④R7以降の推計値は推計児童数*利用割合で算出
ニーズ調査に基づく推計値（就学前）	3,040	2,971	2,930	2,968	2,991	3,017	2,940	2,834	2,682	2,552	
ニーズ調査に基づく推計値（小学生）	-	-	-	-	-	2,015	1,963	1,892	1,791	1,704	
利用割合	10.3%	9.8%	9.6%	10.7%	10.9%	12.0%	13.1%	14.2%	15.3%	16.4%	
伸び率	0.6%	-0.5%	-0.2%	1.1%	0.2%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	

4 子育て短期支援事業（ショートステイ）

（単位：人/年）

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	量の見込みの考え方 実績推計値を採用とした理由など
実績値/推計値	48	32	0	65	72	104	124	142	158	172	○年間に利用する児童数 ・ニーズ推計値＞実績推計値 ※ニーズ推計値が前回の調査と今回の調査で乖離している理由 前回：実際に利用した人数の割合を基に推計 今回：利用してみたいと思う人数の割合を基に推計 ニーズ調査の結果から非常に高いニーズが確認できるが、ニーズ推計値を採用すると実績と比べて過大に量を見込むことになってしまう。 R5時点で年間1,436人（1日4人×359日）まで受入可能に対し、65人の利用数であるため、ニーズ推計値ほど利用する可能性は低いと考えられる。 以上を踏まえ、今後も利用割合は微増していくと判断し、実績を基に量を見込んだ。 ①R2～6の利用児童数÷児童数で利用割合を算出 ②前年からの利用割合の伸び率を算出 ③R7以降は毎年0.1%ずつ利用割合が増加をすると判断 ④R7以降の推計値は推計児童数*利用割合で算出
ニーズ調査に基づく推計値	193	187	181	174	169	21,305	20,137	19,240	18,444	17,839	
利用割合	0.2%	0.1%	-	0.2%	0.3%	0.4%	0.5%	0.6%	0.7%	0.8%	
伸び率	-	-0.1%	-	-	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	

5 地域子育て支援拠点事業

（単位：延べ人数/月）

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	量の見込みの考え方 実績推計値を採用とした理由など
実績値/推計値①	2,184	1,370	2,238	2,393	3,011	3,081	3,081	3,081	3,081	3,081	○月あたりの延べ人数 ・ニーズ推計値＞実績推計値 ニーズ調査の結果から高いニーズが確認できるが、ニーズ推計値を採用すると実績と比べて過大に量を見込むことになってしまう。 以上を踏まえ、今後延べ利用人数が大きく増減する可能性は低いと判断し、実績を基に量を見込んだ。 ①R6は4～6月の平均延べ人数×4で推計 ②前年からの増減数を算出 ③R7の推計値はR6の推計値にR3～5の平均増減数を加えて算出 ④今後も需要の大幅な増減はないと判断したためR8以降はR7と同数とした
ニーズ調査に基づく推計値	21,171	20,363	20,016	19,463	18,952	16,571	15,924	15,524	15,127	14,744	
延べ人数の増減	-3058	-814	868	155	618	70	-	-	-	-	

7 一時預かり事業

(1) 幼稚園

(単位：人/年)

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	量の見込みの考え方 実績推計値を採用とした理由など
実績値/推計値	10,320	13,472	13,669	17,432	14,858	14,396	13,934	13,472	13,010	12,548	○年間の延べ利用人数 ・ニーズ推計値<実績推計値 ニーズ調査の結果からニーズは減少傾向にあることが確認できる。 一方で、実績を踏まえると増える見込みとなる。 このため、幼稚園ニーズは減少傾向にあり、本事業についても減少すると想定されるため、実績を踏まえつつ今後は減少すると判断し、量を見込んだ。 ①R6はR3～5の実績の平均で推計 ②前年からの増減数を算出 ③R3～5の平均増減数は+462となるが、1号認定児は減少傾向にあり今後の利用人数は減少すると判断 ④R7以降の推計値はR6の推計値に毎年462ずつ減少するとして推計
ニーズ調査に基づく推計値	14,249	13,879	13,246	12,768	12,412	11,396	10,624	9,974	9,423	9,050	
延べ利用人数の増減	3152	197	3763	-2574	-462	-462	-462	-462	-462	-462	

(2) 保育所等

(単位：人/年)

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	量の見込みの考え方 実績推計値を採用とした理由など
実績値/推計値	2,035	891	1,036	675	867	859	859	859	859	859	○年間の延べ利用人数 ・ニーズ推計値>実績推計値 ニーズ調査の結果からニーズは減少傾向にあることが確認できる。 一方で、実績から一定のニーズがあることも確認できる。 以上を踏まえ、今後も一定の需要はあると判断し、実績を基に量を見込んだ。 ①R6はR3～5の実績の平均で推計 ②前年からの増減数を算出 ③R7の推計値はR6の推計値にR3～5の平均増減数を加えて算出 ④今後も需要の大幅な増減はないと判断したためR8以降はR7と同数とした
ニーズ調査に基づく推計値	1,229	1,200	1,143	1,097	1,055	578	539	506	478	459	
延べ利用人数の増減	-1144	145	-361	192	-8	-8	-	-	-	-	

8 病児・病後児保育事業

(単位：延べ人数/年)

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	量の見込みの考え方 実績推計値を採用とした理由など
実績値/推計値	848	1,331	1,341	1,701	1,624	1,722	1,820	1,918	2,016	2,114	○年間の延べ人数 ・ニーズ推計値>実績推計値 ニーズ調査の結果から非常に高いニーズが確認できるが、ニーズ推計値を採用すると実績と比べて過大に量を見込むことになってしまう。 R5時点で年間2,160人利用可能に対し、1,701人の利用であるため、今後もニーズ推計値ほど利用することは考えづらい。 一方で、入所割合は微増傾向にあり、事業の周知が図られてきている。 以上を踏まえ、今後も延べ人数は微増すると判断し、実績を基に量を見込んだ。 ①R6は4～6月の延べ人数×4で推計 ②前年からの増減数を算出 ③R7の推計値はR6の推計値にR4～6の平均増減数を加えて算出 ④R8以降も保育所や各施設等での周知による認知度の向上に伴い、毎年増加する判断
ニーズ調査に基づく推計値	24,856	24,101	23,295	22,494	21,769	25,542	24,143	23,066	22,113	21,388	
延べ人数の増減	-1045	483	10	360	-77	98	98	98	98	98	

9 子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）

(単位：人日/年)

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	量の見込みの考え方 実績推計値を採用とした理由など
実績値/推計値	3,380	3,289	3,921	5,894	5,622	5,752	5,752	5,752	5,752	5,752	○年間の延べ人数 ・ニーズ推計値>実績推計値 ※ニーズ推計値が前回の調査と今回の調査で乖離している理由 前回：実際に利用した人数の割合を基に推計 今回：利用してみたいと思う人数の割合を基に推計 ニーズ調査の結果から非常に高いニーズが確認できるが、ニーズ推計値を採用すると実績と比べて過大に量を見込むことになってしまう。 以上を踏まえ、今後も一定の需要はあると判断し、実績を基に量を見込んだ。 ①R6は4～7月の実績×3で推計 ②前年からの増減数を算出 ③R7の推計値はR6の推計値にR2～5の平均増減数を加えて算出 ④今後も需要の大幅な増減はないと判断したためR8以降はR7と同数とした
ニーズ調査に基づく推計値	3,816	3,845	3,881	3,807	3,716	14,144	13,680	13,077	12,395	11,721	
延べ人数の増減	-1994	-91	632	1973	-272	130	-	-	-	-	

10 実費徴収に係る補足給付を行う事業

(単位：人/年)

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	量の見込みの考え方 実績推計値を採用とした理由など
実績値/推計値	315	237	238	212	197	184	171	158	145	132	○年間の実人数 幼稚園ニーズの減少とともに利用者も減少すると判断し、実績を基に量を見込んだ ①前年からの増減数を算出 ②R7の推計値はR6にR4～6の平均増減数を加えて算出 ③R7以降は1号認定児が減少していることから利用人数は減少すると判断
実人数の増減	-307	-78	1	-26	-15	-13	-13	-13	-13	-13	

【参考】

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
出生数/推計値	1,926	1,872	1,751	1,633	1,622	1,583	1,543	1,504	1,465	1,428

11 妊婦健診事業

(1) 実人数

(単位：実人数/人)

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	量の見込みの考え方 実績推計値を採用とした理由など
実績値/推計値 (実人数)	2,013	1,944	1,796	1,686	1,674	1,634	1,592	1,552	1,512	1,474	○年間の実人数 ・転出入等によって100%にはならない。 ①R6は出生数の見込みに対してR5の利用割合をかけて推計 ②R2～5の実績をもとに実績÷出生数で利用割合を算出 ③R7はR3～5の平均利用割合に出生数の推計をかけて推計 ④今後も利用割合に大幅な増減はないと判断したためR8以降はR7と同じ利用割合とした
利用割合	104.5%	103.8%	102.6%	103.2%	103.2%	103.2%	103.2%	103.2%	103.2%	103.2%	

(2) 健診回数

(単位：健診回数/回)

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	量の見込みの考え方 実績推計値を採用とした理由など
実績値/推計値 (健診回数)	25,525	26,894	24,703	23,373	23,195	22,637	22,065	21,507	20,950	20,420	○年間の健診回数 ①R6はR3～5の平均利用回数×R6の出生数で推計 ②R2～5の実績を基に実績÷出生数で平均利用回数を算出 ③R7はR3～5の平均利用回数に出生数の推計をかけて推計 ④今後も利用回数に大幅な増減はないと判断したためR8以降はR7と同じ利用回数とした
平均利用回数	13.3	14.4	14.1	14.3	14.3	14.3	14.3	14.3	14.3	14.3	

12 養育支援訪問事業

(単位：人)

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	量の見込みの考え方 実績推計値を採用とした理由など
実績値/推計値	663	549	560	503	460	486	474	462	450	438	○年間に訪問する人数 ①R6はR5の実績にR3～5の前年の増減率の平均をかけて推計 ②R2～5の平均利用割合を算出 ③R7は出生数に平均利用割合をかけて推計 ④今後も利用割合に大幅な増減はないと判断したためR8以降はR7と同じ利用割合とした
利用割合	34.4%	29.3%	32.0%	30.8%	28.4%	30.7%	30.7%	30.7%	30.7%	30.7%	
前年実績の増減少率	16.7%	-17.2%	2.0%	-10.2%	-8.5%	-	-	-	-	-	

13 乳幼児全戸訪問事業

(単位：人)

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	量の見込みの考え方 実績推計値を採用とした理由など
実績値/推計値	1,861	1,770	1,705	1,616	1,542	1,538	1,499	1,461	1,423	1,388	○年間に訪問する実人数 ・訪問時期のズレなどの理由があり、100%にはならない ①R6はR3～5の前年の増減率の平均をもとに出生数とかけて推計 ②R2～5の平均利用割合を算出 ③R7は出生数に平均利用割合をかけて推計 ④今後も利用割合に大幅な増減はないと判断したためR8以降はR7と同じ利用割合とした
利用割合	96.6%	94.6%	97.4%	99.0%	95.1%	97.2%	97.2%	97.2%	97.2%	97.2%	
前年実績の増減少率	-2.9%	-4.9%	-3.7%	-5.2%	-4.6%	-	-	-	-	-	

14 産後ケア事業

(単位：人)

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	量の見込みの考え方 実績推計値を採用とした理由など
実績値/推計値	-	-	-	86	258	258	258	258	258	258	令和5年度までは、感染症流行の影響を受け産後ケア事業の受け入れが縮小していたが、令和6年度より通常の運営に戻り、受託施設も新たに追加（令和5年10月に1か所、令和6年度に2か所）したことから、令和6年度見込みは、令和5年度の3倍となっている。 妊産婦の高齢化や核家族化などを背景に、産後に不安や負担を抱えるハイリスク妊産婦も増加しており、今後もニーズがある事業と思われ、令和7年度以降の見込みを令和6年度見込みと同数とした。

15 乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）

(単位：人)

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	量の見込みの考え方 実績推計値を採用とした理由など
実績値/推計値	-	-	-	-	-	167	160	156	153	149	<p>事業の対象となる児童は0歳6か月から満3歳未満で、月10時間の利用を想定している。ニーズ調査の回答を踏まえ、保育所等を利用していない0～2歳児の利用希望を見込む</p> <p>R7を例とすると</p> <p>①必要受入時間数：0～2歳児の児童数×10時間 0歳児：1,583、1～2歳児：3,386 =4,969 4,969×10=49,690</p> <p>②必要定員数：必要受入時間数÷定員1人あたりの受入可能時間数 49,690÷176(8時間×22日)=282</p> <p>③ニーズ調査の回答で保育所等に通っていない人のうちこども誰でも通園制度の利用希望の割合 ニーズ調査の回答：743 うち教育・保育施設を利用している人：594 うち教育・保育施設を利用していない人：149 149のうちこども誰でも通園制度を利用したいと希望した人：88 88÷149=59%</p> <p>④推計値：必要定員数×59% 282×59%=167</p>

16 子育て世帯訪問支援事業

(1) 産前・産後ヘルパー派遣事業（妊産婦向け）

(単位：時間)

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	量の見込みの考え方 実績推計値を採用とした理由など
実績値/推計値	-	-	-	-	-	380	452	538	640	762	<p>・派遣対象…妊娠・出産・育児期に心身の不調等により、子どもの養育等に支障があり、日中の家事等の手伝いをしてもらえる人がいない世帯</p> <p>・令和5年度の派遣回数（110回）に、令和元年度から令和5年年度までの平均派遣回数の伸び率の平均値（119%）を掛けた数値を令和7年度の派遣回数（131回）と見込み、過去5年世帯平均派遣回数（6.9回）で割った数を利用世帯数（19世帯）とする。</p> <p>・利用回数については、当該事業開始時に参考としていた国の養育支援訪問事業ガイドラインに、「3か月程度の短期集中支援で定期的な訪問支援を行う」とあり、週1回の利用を想定すると、3か月で12回程度となるが、現行の市実施要綱で定めている利用回数のおり、1人あたり10回以内としている。</p> <p>また、利用時間については、令和5年度までは1回3時間を上限としていたが、過去3年平均の1回あたりの平均派遣時間が1.56時間と算出できたことから、令和6年度以降は1世帯あたり1回2時間とすることとした。</p> <p>∴ 19世帯 × 10回 × 2時間 = 380時間 …年間派遣時間（R7見込み）</p> <p>※R8年度以降の見込みについては、前年度の年間派遣時間（見込み）に平均派遣回数の伸び率の平均値（119%）を掛けた値とする。</p>

(2) 子育て世帯ヘルパー派遣事業（ヤングケアラー世帯向け）

（単位：時間）

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	量の見込みの考え方 第2次計画からの変更点など
実績値/推計値	-	-	-	-	-	1,152	1,152	1,152	1,152	1,152	<p>本事業の対象はヤングケアラーの中でも、既存の福祉サービス（高齢や障がい）の利用が難しい、きょうだいをケアする児童を主な対象と想定。国の調査に基づくヤングケアラーの割合などから推計し、支援対象児童を12名とした。</p> <p>令和5年度から、「産前・産後ヘルパー派遣事業」に倣い事業内容を検討したことにより、ヘルパー派遣は1回2時間を上限、週1回、12月利用することとし、総派遣時間を見込む。</p> <p>∴ 12世帯 × 2時間 × 4回/月 × 12月 = 1,152時間 …年間派遣時間（R7見込み）</p>

17 妊婦のための支援給付・妊婦等包括相談支援事業（出産・子育て応援給付金と伴走型相談支援）

（単位：人）

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	量の見込みの考え方 実績推計値を採用とした理由など
実績値/推計値	-	-	-	-	-	3,166	3,086	3,008	2,930	2,856	<p>「妊婦のための支援給付」として、妊娠届出時と、妊娠している児童の人数の届出時に支給を行うことから、0歳児の現住人口からの推計人数（R7～R11）の2倍の人数をR6年度の0歳児の地区別割合で案分。</p> <p>回/月 × 12月 = 1,152時間 …年間派遣時間（R7見込み）</p>